

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
M211L104	生化学 (Biochemistry)					心身の機構								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
	1	1	医学部看護学 科	後期	月2	日本語		オムニバス						
担当 教員	氏名 花田俊勝(生化学・分子遺伝学)・松尾哲孝(生化学・分子遺伝学)・清水誠之(生化学・分子遺伝学) E-mail seika1@ 内線 5662													
授業 の 概 要	生体の正常なしくみや機能、あるいはその破綻した状態である病気を分子レベルで理解し、その学習成果を将来の看護医療に役立てる。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	生体を構成する分子の構造・機能について理解する。													
目標2	生体内分子の代謝・合成について理解する。													
目標3	生体の正常なしくみや機能を分子レベルで理解する。													
目標4	病気を分子レベルで理解する。													
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							4		2				4	
授業の内容														
1	生化学を学ぶための基礎知識													
2	代謝の基礎と酵素・補酵素													
3	糖質の構造と機能・糖質代謝													
4	糖質の構造と機能・糖質代謝													
5	脂質の構造と機能・脂質代謝													
6	脂質の構造と機能・脂質代謝													
7	タンパク質の構造と機能・タンパク質代謝													
8	タンパク質の構造と機能・タンパク質代謝													
9	ポルフィリン代謝と異物代謝													
10	遺伝子と核酸													
11	遺伝子の複製・修復・組換え													
12	転写													
13	翻訳と翻訳後修飾													
14	シグナル伝達													
15	がん													
ラ イ ク ニ テ イ グ ブ	A:知識の定着・確認	小テスト					工 夫 そ の 他 の							
	B:意見の表現・交換	発問、グループ検討												
	C:応用志向	病態生化学に関連する症例検討												
	D:知識の活用・創造													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	生命科学あるいは医療に関する本を読んでレポートを書く(8h)。												
	事後学修	配布資料・教科書・小テストを用い授業で学習した内容を復習する(12h)。												
	想定時間合計													
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学(第14版) 畠山 鎮次 著(医学書院)2019年出版													
参考書	リップンコットシリーズ イラストレイテッド生化学[原書8版](丸善出版)2023年出版、Essential細胞生物学[原書5版](南江堂)2021年出版													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		レポート	20%									
	期末試験	80%										
注意事項	レポート課題を提出することが期末試験の受験の資格となる。											
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	花田俊勝（医師）											
実務経験を いかした教 育内容	臨床現場で必要とされる生化学および分子細胞生物学的に関する基本的知識を講義する。											